

## いのちのお礼

東京都 東洋英和女学院小学部 五年

保田 清佳

夏休みも残り少なくなってきた。

「つくつくぼうしが鳴き出すと夏も終わるよ。」

と、祖父が言っていたのを思い出した。にぎやかなセミの鳴き声を聞いていると、今年も大好きな祖父と過ごした楽しかった夏の思い出がよみがえってくる。

「まるで奇せきを見ているようね。」

帰省先での旅行中、元気に歩く祖母を見て、母がつぶやいた。五年前、祖母は大きな病気をした。私はまだ小さかったので、良く分からなかったのだけれど、手術をして、祖父と一緒に乗りこえてきたそうだ。しばらく会えなかった期間は、祖父と一緒にとっても大変な時間だった。でも、そんなことを全く気づかないくらい、祖母はとにかく前向きだ。

「さやちゃんに会えるだけで、おじいちゃんとおばあちゃん、元気がもたえるよ。ありがとうね。」

そう言ってく二人は私をぎゅっと抱きしめてくれる。でも、私はいつも思う。

「私の方こそ、いつも元気をもらっているよ。」

会えない時も、私はよく祖父に電話をしている。学校での出来事、友達のこと、ピアノの練習のこと、嬉しいことがあった時も、上手くいかないことがあった時も、いろんな話をしてきた。ある時、小さなことでぐずぐず悩んでいた私に祖母が言ってくれた。

「今を一生けん命。マイナスの気持ちになつてはだめよ。今、この時に感謝しながら過ごしていると、良いことがついてく

るよ。」

祖母の言葉は、なぜかいつも私の心にすつとしみ込んでくる。祖母は、私の想像よりもずっと大変な治りようを受けてきたようだ。一緒にいた時も、時々つかれて横になっていたことがある。

「おばあちゃんね、いのちを助けてもらったからこれからはそのお礼のために役に立っていきたい」と思っているんよ。」

そう話していた祖母。その言葉の通り、祖母はいつも自分のことよりも、相手のことを思っていて動いている。祖母のやさしさと強さは、そこから来ているのだな、と少しだけ分かった気がした。人の喜び、心の助かり、幸せを願うこと。それが祖母にとつての、いのちのお礼なのだそう。

私には、まだ想像しきれないことや分からないこともたくさんある。でも、私にとつて祖父と過ごす時間は本当にかげがえない時間で、祖父と一緒にいると、いつも笑顔で前向きになれる。

東京に帰らなければならぬ日は、毎回さみしくて新幹線の中でなみだがあふれてくる。でも、祖母が教えてくれたように、今を一生けん命、日々の感謝を忘れないようにして、これからもいろんなことに挑戦していきたい。

「おじいちゃん、おばあちゃん、今年も楽しい夏休みをありがとう。また来年、元気に会おうね。」